長岡で輝く

長岡市地域おこし協力隊 卒業後も続く挑戦

地域おこし協力隊の任務を終え、長岡で暮らしながら活動を続けるOB・OGたち。それぞれの仕事場で近況を語ってくれました。

長岡市
NAGAOKA City

地域おこし協力隊とは

都市地域から過疎地域等に住民票を移し、最大3年の任期で地域の課題や活性化に従事してもらい、定住促進を図る取り組み。平成21年度に総務省が制度化、長岡市では28年度に開始し、各地で隊員が活動中です。

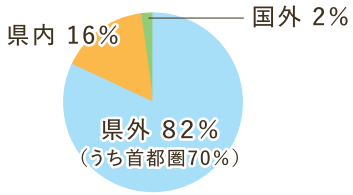
長岡市の協力隊状況（令和7年3月1日現在）

採用延べ人数

64人

内訳
現役隊員 18人　退任 46人

転入前住所地割合



男女比

男性 59%　女性 41%

（うち現役の場合 男性50% 女性50%）

退任後の市内定住率

63.0%

退任後の市内居住起業率

51.7%

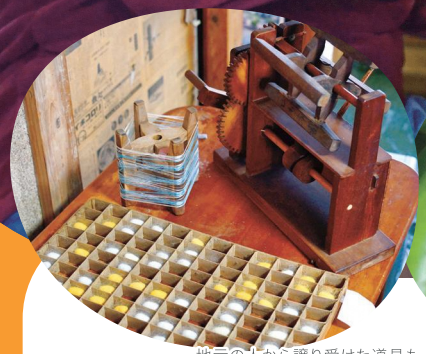
主な活動内容

- 伝統技術の習得や継承
- 企業と大学・高専の連携とコーディネート
- 学生の就職支援
- スポーツによる地域活性化
- 地元産ワインを中心とした地域物産のPR
- 地域の観光コンテンツの整理やPR
- 市内企業への外国人のインターンシップマッチングから採用へのコーディネート　など

お問い合わせ先

長岡市地域振興戦略部 地域支援班
〒940-0062 新潟県長岡市大手通2-6（大手通庁舎）
0258-39-2260

土地の記憶に触れ、養蚕の道へ
地域に支えられ、“ぼこさま”を育む「玉繭屋」
調理師のキャリアを生かした「米飴屋」も



地元の人から譲り受けた道具も

桑を食む姿がかわいらしい蚕たち

小林 由紀子（こばやし ゆきこ）さん

出身地
大阪府

趣味
昔ながらの手仕事が好きです

今後の予定
6月にトチオーレで稚蚕を配布します

協力隊の時期
R.4.3.1
〜
R.5.3.31

冬仕事で「もち米飴」を製造販売

始まりは、ほんの好奇心

埼玉県と神奈川県で10年ほど、小学校や保育園の給食調理員をしていました。調理師免許も取りましたが、調理の仕事に心身が疲れ、ほかになにができるだろうと。そんなときに協力隊のことを知り、応募しました。

栃尾の一之貝集落で地域おこしの仕事をする中で、土地の歴史を調べて、かつて織物が盛んで「栃尾紬」というものがあり、養蚕が行われていたと。それで、ちょっと蚕を飼ってみたいなと思ったんです。ほんの好奇心で（笑）。

集落のために残ると決めた

蚕は生き物で、つきっきりになる期間があるため、仕事の両立が難しいと思い、協力隊は一年で卒業して養蚕に力を注ぐことにしました。県外に出ることも考えましたが、ここで出会った人たちがとても親切で、やはり栃尾でやっていきたいと思って。家探しも手伝ってくださり、空き家だったこの家を譲り受けました。

「玉繭屋（たままゆや）」という屋号で、小さな幼虫を100頭ほど飼うことから始めました。実は私、虫が苦手で最初は蚕に触れなかったんですよ（笑）。お世話をしていると不思議と愛着が湧くもので、なんだかかわいいと思うようになってきて。小さな虫が成長して繭を作り、それが糸になる。すごく神秘的ですよね。

中越地域では蚕の幼虫を〝ぼこさま〟と呼びます。近所のおばあちゃんたちが「昔うちもやってたよ」と言って蚕のエサになる桑を届けてくれたり、蚕の育て方や糸の取り方を教えてくれたり、使っていない古い道具もいただきました。ただ見に来る人もいて、この環境が本当によかったなと感じています。

地元の小学校で蚕を育てて観察日記を作ってもらったり、いまでは私自身が飼い方を教えることもしているんです。

出会いと試行錯誤を重ねて

養蚕がお休みの冬の間は「もち米飴」を作ります。こちらの屋号は「米飴屋（こめあめや）」。養蚕を学ぶために全国各地に出かける中、福島で米飴をいただいて作り方も教わって。その後ネットで調べてオリジナルのレシピを考案しました。栃尾で出会った方が見附市で「雨霽（うせい）」という喫茶店をやっていて、そのキッチンを使わせていただいています。材料のもち米「梅三郎糯」と水は地元産、プレーンのほかに私の好みでユズ味とショウガ味も作り、3種類を雨霽と道の駅などで販売しています。

これからも、地域のためになにができるか考えながら試行錯誤していきたいです。

鍛冶の親方に弟子入りして8年
「越後与板打刃物」の未来を見据え
四百年余の伝統と技術をつなぐ

地金を熱する火床(ほど)

穏やかな語り口にも情熱が

島田（しまだ） 拓弥（たくや） さん

出身地
神奈川県

趣味
料理、ギター

今後の予定
削ろう会大阪交野大会出展（4月12・13日）
越後与板打刃物職人祭の工房めぐりで実演（6月7日）

協力隊の時期
H.29.6.1
〜
R.2.5.31

島田さん製作のカンナ

祖父への憧れで職人に

大好きな祖父が大工で、小さいころは「じいちゃんみたいな大工になりたい」と思っていました。東京の大学で学び、卒業後は会社に勤めていましたが、祖父への憧れもあって、次第に「手に職をつけたい。職人になりたい」と思うようになってきて。協力隊の募集で鍛冶職人の仕事を見つけて「これだ！」と。

自分の腕で勝負したい

与板に移住し、最初は「越後与板打刃物匠会」の鑿（ノミ）鍛冶さんに弟子入りして、半年後に中野鉋（カンナ）製作所に入りました。3年間の任期終了後は、長岡市の「伝統工芸後継者育成支援事業」の補助金を受けて修業を継続し、かれこれ8年になります。

自分だけの技術というか、自分の腕で勝負できる仕事がしたいとずっと思っていて、主にカンナと、その裏側にある「裏金」を年に何千枚も作ってきました。

ハンマーで手を叩いたり、グラインダー（回転する砥石）で指を削ったり、怪我をすることもあるし、火を使うので真夏は室温が50度になることもあって、それが本当に辛い…（笑）。大変な仕事ですが、やめたいと思ったことはないですね。道具の需要が減り、鍛冶屋も減る中で、僕が作ったカンナを道具にこだわりのある職人さんに認めてもらえたときは本当にうれしくて、やりがいを感じます。

後継者として次のステージへ

祖父母が新潟に住んでいて、よく遊びに来ていたから、大雪もそんなに気になりません。移住先を考えたとき、新潟なら、なんとかなるかなって（笑）。休みの日は近くの温泉に出かけて、料理もけっこう好きです。どんな素材でも工夫次第でおいしくなる。それは、鍛冶屋の仕事も一緒かなと。同じカンナでも、作る人の考え方、工夫や経験次第で変わってきます。そんなに簡単じゃない、思い通りにいかないところにおもしろさを感じるんです。

「越後与板打刃物」は戦国時代から450年もの歴史がありますが、現在は十数人の職人しかいません。高齢化が進み、70代から80代が中心で、引退する人も多いです。30代は僕ともうひとりだけ。与板打刃物の後継者として、親方たちからの期待も感じています。

まもなく修業が終わるので、自分の技術を磨くとともに、どのように伝統をつないでいくか考えなくては。SNSで発信したり、新しく修業する人にとって快適な環境を整えたり、いまの生活に合った新商品を考えたり、やることはたくさんありますね。

長岡の豊かな資源を発掘し テクノロジーで課題解決を図る「未来里山技術機構」設立 ニホンミツバチの養蜂も

双網（ふたあみ）で鴨を捕獲

スノーバイクで雪に親しむ

事業の展望を語る服部さん

服部 祥吾 さん

出身地
青森県

趣味
食材採集
カヤックフィッシング
日本酒、木工

今後の予定
中山間地域資源を活用するための様々な取り組みを準備しています。その一環として観光ツアー事業を始めます。SNS等で情報発信を行うので、興味のある方はぜひ遊びに来てください。

協力隊の時期
R.2.4.1
～
R.5.3.31

未知なるものへの探究心

八戸高専（工業高等専門学校）から技大（長岡技術科学大学）に編入し、高専の先輩でもある小笠原渉先生の研究室でバイオテクノロジーを学びました。修士も含め4年間を過ごした長岡は住みやすく、技大で学んだ私に期待されていることがあると感じ、協力隊として残ることにしたんです。

それに、長岡はお酒もおいしいですしね。子どものころから発酵に興味があり、お酒をつくる実験をしていたくらい（笑）。目に見えないものや未知のものを探究し、どうにかして解明するのがおもしろいんです。

未利用資源の活路を探る

協力隊の任務は、未利用資源の現状や課題の調査、利活用法の考案など。たとえば寺泊漁港から漁船に乗り、漁協の取材をして、温暖化で北上するようになった魚「エソ」など、漁獲量の3分の2が廃棄されていると知りました。骨が多くて食べづらいこともありますが、なじみのない魚は鮮魚店が扱わないので流通しません。そこで、飲食店で未利用魚を活用した料理を作ってもらうキャンペーンをしました。

農産物では枝豆。豆の数や質など規格外のものは弾かれて4割が廃棄です。もったいないけれど、B品を流通させると値崩れするし、魚と同様、流通に課題があって。やはり現場に入らないと見えないことが多いですね。

ミツバチで山の資源を抽出

和島を拠点に3年の任期を終え、地域とのつながりもできたので、ここで活動を続けることにしました。起業支援補助金をいただいて始めたのが養蜂です。敷地を使っていいよと言ってくださる方がいて、ニホンミツバチを飼い始めました。和島や越路など数カ所に巣箱を置き、山の資源を抽出する方法としての養蜂。ハチミツがおいしいんですよ。これも未利用資源の活用で、蜂のための環境整備も大切です。

2024年2月に、技大で野生動物の研究をしている山本麻希先生と会社を設立しました。名称は「未来里山技術機構」、通称NEST。専門家と協働し、昔は当たり前だった循環する暮らしをテクノロジーで再現する〝懐かしい未来〟の実現を目指しています。

れんこん畑を荒らす鴨を捕獲したり、雪上をバイクで駆け巡る「スノーバイクツアー」を開催したり、楽しいことをいろいろ計画し、実施しています。地方はどこも似たような課題を抱えていますが、中山間地域を稼げるようにした事例を長岡でつくり、若い人たちが活躍できる仕事を生み出したいと思っています。